

多賀城市アンケート (2011年5月)結果

調査結果報告書

◆提言編◆

◆資料編◆

2011年5月30日



被災者と専門的支援をつなぐ

つなプロ

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

<提言編>

多賀城市アンケート(2011年5月)結果

今後の対応策(提案)

2011年5月30日



被災者と専門的支援をつなぐ

つなプロ

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

<提言編> 多賀城市アンケート(2011年5月)結果から考える対応策

(主なポイント)

<見えてくる課題>

- ・高齢者が多く、不眠、運動不足、栄養摂取状態の悪化が見られる
 - 回答者の51%が60歳以上
 - 「十分な食事がとれている」の回答が60代では50%
 - 心身の不調を訴える人が62%、高齢者は慢性疾患や持病の悪化が懸念される
- ・自宅は全壊ではない避難者もあり、避難者の背景は多様
 - 「自宅の片付けが終わっていないから」 37%
 - 「ライフラインが復旧していないから」 14%
 - 以前は親類の家にはいたが、居づらくなって避難所に戻った人も
- ・仕事への意欲は「健康」「住まい」に関する不安が軽減されてから高まる
 - 健康状態に不安のある人は、仕事への意欲が低い
 - 自宅の修復や片付けができれば戻ると回答した人も、同様に低い
 - 先の見通しが立たないと、新しい生活に一步を踏み出しにくい
- ・家族・地域コミュニティの重要性
 - 困ったときの相談相手は「同居する家族・親戚」が半数
 - 次いで「近所・地域の人(30%)」「別に暮らす家族・親戚(28%)」
 - 「専門家(15%)」「支援団体(2%)」は「他の避難者(19%)」より低い
- ・心のケアやアレルギーなど専門対応が必要な避難者も
 - 若い世代では「恐怖」「強い悲しみ」、高齢者では「強い怒り」を感じている人が多い
 - 避難所を退所することで、孤立感が深まることへの不安も大きい
 - 避難所退所後も保健師やカウンセラーなど専門家による支援が必要

<考えられる対応策(要点)>

- ① 避難所を「高齢者対応」に
避難所での食事内容や生活様式を、高齢者仕様に変更し、健康状態の悪化を防ぐことで避難の長期化を防止
- ② 住まい相談のワンストップ化
「仮設住宅」「自費での転居」「自宅の補修」「引っ越し費用」など、住まいに関する相談をワンストップ化し、最適な選択肢を示す
- ③ 仮設住宅入居前交流事業の実施
内覧会や入居者間の事前交流、自治会など地縁組織によるオリエンテーションを通じたコミュニティ形成を促す
- ④ 自宅避難者への専門家派遣
避難所退所後も心身の健康に関する相談が受けられることで、安心して自宅での生活をスタートできる

- (目次)
1. **避難所の基本構成**
 - ✓ 避難所の環境を「高齢者対応」に

 2. **避難者の背景・避難理由**
 - ✓ 多様な背景に配慮した、「住まい相談のワンストップ化」

 3. **避難者の心身の状態**
 - (3-1. 健康・精神状態)
 - ✓ 慢性疾患の悪化防止
 - ✓ 退所後の健康相談の継続、専門家派遣
 - ✓ 「心のケア」は地域全体で

 - (3-2. 「住まい」に関する不安)
 - ✓ 仮設住宅等の情報の周知徹底

 - (3-3. 「仕事」、「お金」に関する不安)
 - ✓ 「就労支援」「生きがい・仕事づくり」が生活再建の第一歩
 - ✓ 「健康」「住まい」の不安軽減で仕事への意欲を高める

 - (3-4. 特別な配慮が必要な少数者への配慮)
 - ✓ 「見えにくい」マイノリティの把握と専門的ケアとのマッチング

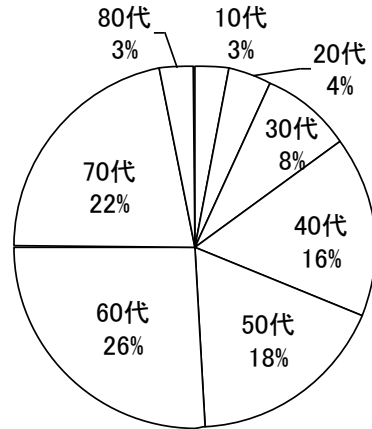
 - (3-5. 家族、地域コミュニティの重要性)
 - ✓ 地域コミュニティの絆を活かした相談体制の整備

避難所の環境を「高齢者対応」に

基本データ (資料編 1-1. 男女比、年代、居住年数)

- 有効回答数 380件
- 男女比は、男性47%、女性53%
- 年代は、40代以上で84%、60代以上が51%を占める

年代の割合(N=380)



食事、睡眠、運動に対する充実度(年代別)
(資料編2-1. 健康状態)

	N=	しっかり食 べられてい ますか？	よく眠れて いますか？	よく(十分)運 動していま すか？
全体	352	65%	38%	32%
10代	12	83%	67%	58%
20代	16	88%	56%	31%
30代	29	76%	41%	52%
40代	55	73%	35%	25%
50代	64	64%	28%	25%
60代	91	53%	40%	38%
70代	75	67%	40%	24%
80代	10	50%	30%	20%

高齢者率に合った避難所運営

- 避難所の高齢化率は高く、年代が高い人ほど、しっかり食事がとれておらず、睡眠、運動ともに十分ではないという状況がみられる。
- 全体では65%の人が十分な食事がとれているが、60代、80代では50%程度と低い。

【提言】

- ★ 避難所での食事内容や生活様式を、高齢者に合ったものにしていき、健康状態の悪化を防ぐことで避難の長期化を防止する必要がある。

多様な背景に配慮した、住まい相談のワンストップ化

避難理由 (資料編 1-2. 避難理由)

- 居住不可能な状態になってしまった 78%
- 自宅の片づけ・修復が終わっていない 37%
- 自宅は居住可能だがライフラインが未復旧だから 14%

避難者の「背景」は多様

- 津波に限らず、地震による自宅損壊やライフラインの不備による居住困難が理由となっている方が多い
- 心理的な状態、親戚の家に居づらくなって避難所に戻った等、人間関係を理由に避難所にとどまっている方もいる。

【提言】

★ 住まい相談のワンストップ化

「仮設住宅」「自費での転居」「自宅の補修」「引っ越し費用」など、
住まいに関する相談をワンストップ化し、最適な選択肢を示す相談窓口の設置を

慢性疾患の悪化防止

心身の状態 (資料編 2-1. 健康状態)

- 心身の不調がある 62%
- 高血圧・糖尿病がある 19%、慢性的な病気がある 12%
- 様々なタイプの精神不安がある(怒り31%、無気力27%、混乱26%、絶望24%)
- 周囲に「大声を出したり、いつも落ち着かないなど、気になる行動をとる人」がいる17%

慢性疾患への対処を

- 避難生活が長引く中で慢性疾患を悪化させると、医療費などの金銭的な負担が増すと同時に就労意欲の低下を招き、その後の自立生活がより困難になる。
- 慢性疾患のある方への対応を放置しては、社会的にも医療費・生活保護費の増大が予測でき、将来的に誰にとっても望ましくない状況を生じることになる。

【提言】

- ★ 避難所での食事・運動等への配慮により、避難所の中で慢性疾患の状況悪化者を出さないことを徹底する。

退所後の健康相談の継続、専門家派遣

心身の状態 (資料編 2-1. 健康状態)

- 心身の不調がある 62%
- 高血圧・糖尿病がある 19%、慢性的な病気がある 12%
- 様々なタイプの精神不安がある(怒り31%、無気力27%、混乱26%、絶望24%)
- 周囲に「大声を出したり、いつも落ち着かないなど、気になる行動をとる人」がいる17%

健康相談の継続と「ハイリスクな人」への対応

- 特に70代以上の高齢者の方には、健康面が不安で避難所におられる方がいる。
- また、ハイリスクな人には、避難所で周囲から「気になる」と指摘されている精神的な診療が必要に思われる方と、飲酒癖のある方があげられる。

【提言】

- ★ 避難所を退所した後も、継続して健康相談ができる窓口を設ける。
- ★ 精神的な診療が必要と懸念されるケースには、できる限り避難所において、その方の状態や家族の状況を専門家が確認し、退所後のケアにつなげる。
(避難所退所後も心身の健康に関する相談が受けられることで、安心して自宅での生活をスタートできる)
- ★ 避難所から移動したあとの飲酒習慣が適切かどうか、継続して見守る体制が地域に必要。
(233名が仮設住宅で亡くなった阪神淡路大震災においても、飲酒は孤独死と強い関係が指摘されている)

「心のケア」は地域全体で

心身の状態 (資料編 2-1. 健康状態)

- 心身の不調がある 62%
- 高血圧・糖尿病がある 19%、慢性的な病気がある 12%
- 様々なタイプの精神不安がある(怒り31%、無気力27%、混乱26%、絶望24%)
- 周囲に「大声を出したり、いつも落ち着かないなど、気になる行動をとる人」がいる17%

地域で必要とされる「心のケア」

- 10代から30代は「恐怖」「強い悲しみ」を感じている方が多く、高齢者は「強い怒り」を感じている方が多い。
- 様々な精神不安があるが、避難所にいることで不安や落ち込みが軽減されていると感じている方もいる。
- その場合、避難所からの退所は、同じ経験を持つ仲間と離れ離れになり、手軽に医療や精神的なケアが受けられなくなるのではという不安は大きい。
- また、損傷を免れた自宅に暮らす地域住民にも、大災害を身近に経験したことによる強いストレスで、時間の経過とともに精神的なケアの必要性が顕著になる方も、相当数いると考えられる。

【提言】

★ 対象を避難者に限定せず、誰でも気軽に精神的なケアが受けられる施設を地域社会に複数設けることが有効。

(阪神淡路大震災では、被災前から精神科に通院していた患者を対象に「精神科救護所」が設けられたが、実際は、被災前には通院していない震災後に心のケアが必要になって訪れた方の受診が多かった)

仮設住宅等の情報の周知徹底

不安に思っていること（資料編 3. 将来への見通し）

- 住居について不安を感じている方が76%、最もニーズが多い
- 生活再建に向けて相談したい内容の37%が「自宅の修復」、27%が「引っ越し等、一時的に必要な資金」、25%が「転居先(市内)での生活」
- 「二次避難先などの情報提供の充実」「車いすなので階段のあるところがおっかない」

「仮設住宅」等の情報の周知徹底を

- 住まいに関して、より詳しい情報提供を求める切実な記述がある。
- バリアフリー、快適性への配慮に関する情報も重要であり、お風呂の状態、玄関アプローチの高さ、照明の種類、談話室などの共有スペースの広さ、立地の利便性、移動手段、家電・寝具・生活用品などの備品についてなど、細部にわたる情報が求められている。

仮設住宅等の情報の周知徹底

【提言】

行政に求められる住まいに関するサポート

- ★ 避難所を退所した後の住まいに関して、「仮設住宅」「民間借上住宅」「遠隔避難」など、住まいの形態別の説明会ではなく、避難者本位で個別の生活ニーズ（自営業の再開や、勤務、通学、通院状況など）のヒアリングを行いながら相談にのれることが望ましい。
- ★ 地域型仮設住宅の需要を早期に見極め、準備する必要がある。
- ★ 同じ仮設住宅に入居する避難者、または仮設の入居者と地域住民の両方が参加できる「オリエンテーション」の開催等、仮設住宅への移動前から入居者がお互いの関係をつくれる参加型プログラムがあれば、早期からコミュニティづくりを意識できる効果が高い。
- ★ 初期の入居者が安心して新生活をスタートさせ、安堵の声が聞こえてくるのが、避難所にいる避難者の不安を解消する。
(阪神淡路大震災当時、初期に仮設住宅へ入居した被災者の不満がメディアで報じられた。
その後、避難所から仮設住宅への移動が鈍る要因となり、避難所の長期化に大きな影響を与えた)

仮設住宅等の情報の周知徹底

【提言】

NPO・市民団体にできる住まいに関するサポート

- ★ ご近所地図(買い物・医院・食事処などのマップ)や、共同での庭造りのプログラムなど生活者の視点の情報提供。
- ★ 自宅へ戻ることが困難な状況であっても、避難者が自宅を見に行くことや、ボランティアによる片づけサポートが、避難者の気持ちの整理に役立つ場合がある。避難者の自主的な判断をできる限り尊重することで、避難者が本来の生活を取り戻すことに貢献できる。
- ★ 「談話室」のように住民同士が集う場は、効果的に活用すれば仮設住宅の住民のQOL向上に非常に有効である。しかし、「談話室」の運営者のマネジメントによって、その成果に大きく差がでることから、運営者支援やネットワークづくりをサポートするなど、NPOや行政による側面支援が重要となることがある。
- ★ 仮設住宅の自治会等と「談話室」の運営がほぼ同じメンバーで構成された場合、運営の中心メンバーの疲弊や退去により、活動が停止する恐れがある。仮設住宅の外に住む地域住民が早期から運営に関われるようにするなど、できるだけ多様な構成員で運営を行っていけるよう仮設住宅、地域の両方の住民の参画を促す。

「就労支援」「生きがい・仕事づくり」が生活再建への第一歩

仕事・お金に関する不安 （資料編 3. 将来への見通し）

- 10代から30代では、解雇された方が30%以上（全体では18%）
- 収入について不安を感じている方が59%。特に、被災以前は就労していて、自宅待機になった、解雇された方の8割以上が収入に不安を感じている
- 生活再建に向けて相談したい内容の36%が「日常的な生活に必要な資金」、21%が「求職・就職のサポート」
- 中期的には、仕事に対する希望が50代以下で強い
- 「収入が安定しないため、ローン等の支払いがちゃんとできるか不安」

経済的な困難が将来に不安の影を落とす

- 震災によって自宅待機や、解雇された方の収入への不安は大きい。
- 特に、20代・30代の解雇された方の割合は40代以上の方に比べて高く、仕事へ復帰の意欲も高い。
- この層に向けた雇用促進支援は急がれる。
- また、50代以上では新しい仕事を探せるかどうかの不安も大きく、経済的な困難が生活再建に向けて大きなハードルとなっていることがうかがえる。

【提言】

- ★ 支援金や雇用支援に関する情報が、必要とする人にすみやかに届けられることが重要。
- ★ 在宅避難者も経済的な困難を抱えていることが予測される。
- ★ 地域全体において雇用・仕事の量を増やし、収入を増やすことが必要。
- ★ 行政・NPO・民間企業のセクターを超えた連携によるマッチング機能の整備、地域での事業継続支援と並行して、社会的ニーズにこたえる社会起業やコミュニティビジネス支援など、多様な仕事の創出等が考えられる。
- ★ 仮設住宅などでの高齢者の「いきがい」としての仕事づくりと福祉的な支援の併用など、多種多様な「自立」のあり方を模索しながら、被災者に寄り添った長期的支援が求められる。

「健康」、「住まい」の不安軽減で仕事への意欲を高める

仕事・お金に関する不安 （資料編 3. 将来への見通し）

- 10代から30代では、解雇された方が30%以上（全体では18%）
- 収入について不安を感じている方が59%。特に、被災以前は就労していて、自宅待機になった、解雇された方の8割以上が収入に不安を感じている
- 生活再建に向けて相談したい内容の36%が「日常的な生活に必要な資金」、21%が「求職・就職のサポート」
- 中期的には、仕事に対する希望が50代以下で強い
- 「収入が安定しないため、ローン等の支払いがちゃんとできるか不安」

仕事への意欲は「健康」「住まい」に関する不安が軽減されてから高まる

- 健康状態が良くない方の仕事への意欲は低い。
- また、自宅が「居住可能だが片づけ・修復が終わっていない」「ライフラインが未復旧」が理由で避難所におられる方の仕事への意欲もその次に低い。
- 彼らの意識は、今は住めないが戻れる可能性のある自宅に意識が向けられており、一方で、居住可能な住まいがある方、もしくは、自宅が完全に居住不可能な方の意識は仕事に向かっている。

【提言】

- ★ 被災者の日常の回復のために、まずは「健康」を維持できる支援・環境が重要であり、次に「住まい」について迷いの生じる状況からの脱却が必要である。
- ★ このプロセスは、被災後、在宅で過ごしている地域住民の方にもあてはまり、被災した心身の健康状態の確認や、住まいに関する悩みごとに対応できる体制が地域社会に必要。

「見えにくい」マイノリティの把握と専門的ケアとのマッチング

アレルギー、障がいのある方、外国人、妊婦(特別な配慮が必要な少数者)について
(資料編 2-3. 身体・精神的な障害、2-4. 支援内容)

- 食品アレルギーを持つ方は7人(1.8%)、家族にアレルギーの人がいる方は1.6%
- 外国籍の方は2人(0.5%)、家族に外国籍の人がいる方は0.5%
- 妊婦の方は1人(0.3%)、家族に妊婦がいる人は2.1%
- 家族に乳児がいる方は3人(0.8%)
- 日常的に身体介護が必要な方は4人(1%)
- 70代以上では10%の方が、聴覚にハンディがある

見えやすいマイノリティ(少数者)と、「見えにくい」マイノリティの存在

- 妊婦は配慮を受けやすいが、食品アレルギーは周囲に認知されにくい。
- 一見、好き嫌いのように見える食品アレルギーだが、避難所の限られた食事の中で、さらに食べられるものが限定されるという過酷な状況に置かれている。
- 聴覚にハンディがある方も、特別な配慮のないままの集団生活では不自由が大きい。

【提言】

- ★ 発災後2か月を過ぎても、「見えにくい」マイノリティ(少数者)の存在が把握されていなかったり、また、その存在を前提とした避難所運営が行われていない場合は、避難所運営を見直し、大きく環境を改善する余地がある。
- ★ マイノリティのニーズの内容によっては、専門性のある医療者やNPO等と積極的につなぐことで、避難所を退所した後のケアについても連携して取り組むことができる場合がある。

地域コミュニティの絆を活かした相談体制の整備

困った時の相談相手（資料編 2-2. 精神状態）

- 困ったときに相談する相手は「家族・親戚(避難所で同居)」が約半数を占め、次いで「ご近所・地域の人」が30%、「家族・親戚(別居)」が28%の順に多い
- 「専門家(医師・看護師・保健師など)」への相談は15%、「支援団体」で2%。「他の避難者」19%より低い
- 「他人に相談していない」方も13%

地域コミュニティの絆を活かして

- 50代以上の方は3割以上がご近所など地域コミュニティの人へ相談していることから、災害にあう前の地域にコミュニティのつながりがうかがえた。
- 男性と比べて女性の方が「ご近所・地域の人」へ相談する比率が高く、同時に「他人に相談していない」のは男性の方が高い。
- 今後の仮設住宅では、ご近所づきあいを再生し、地域の人を巻き込んだコミュニティをつくることの重要性がより顕著に示されているといえる。
- 一方、孤立感があつたり、自分を強く責める気持ちがあつたり、暴力的な気持ちを持つ方は、「他人に相談していない」割合が23%以上と高い。

【提言】

- ★ 他人に相談する傾向が少ない男性(特に50代・60代)を意識的に地域との交流を促す仕掛けは「孤独死」を出さないためにも有効である。
- ★ 地域コミュニティが維持できる支援が有効である一方で、ご近所の人には相談しにくい課題を持つ個人に対しては、専門性をもったNPO・行政による支援も必要とされる。避難所を退所後も専門家による訪問支援は必要とされる。

<資料編>

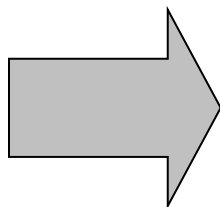
多賀城市アンケート(2011年5月)

分析報告詳細

2011年5月30日



被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)



1. **基本データ**
 - 1-1. 男女比、年代、居住年数、家族数
 - 1-2. 避難理由
 - 1-3. 就業環境の変化

2. **避難所生活**
 - 2-1. 健康状態
 - 2-2. 精神状態
 - 2-3. 身体・精神的な障害
 - 2-4. 支援内容/その他

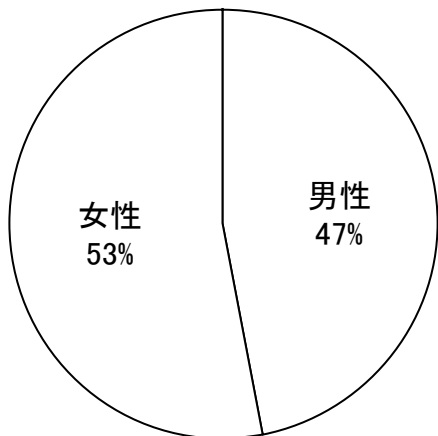
3. **将来への見通し**

年代は60代以上が51パーセント

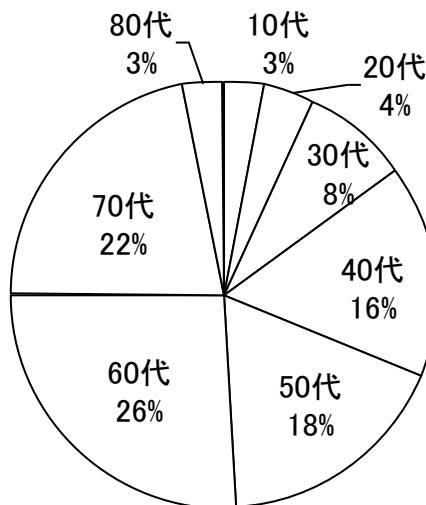
- 男女比は、男性47%、女性53%
- 年代は、40代以上で84%、60代以上が51%を占める
- 居住年数は、20年未満がもっとも多く22%を占める

基本データ(男女比、年代、居住年数)

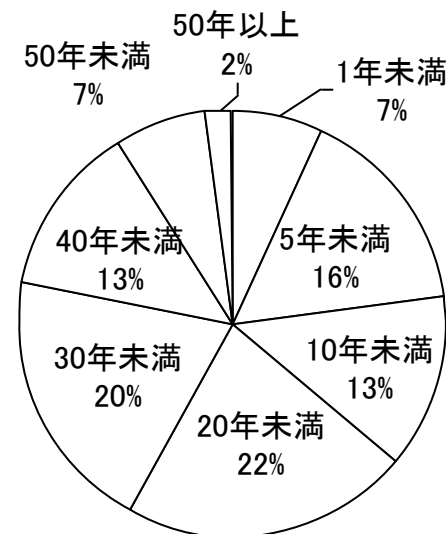
男女の割合(N=380)



年代の割合(N=380)



居住年数の割合(N=380)



何らかの理由で家族数が減少した世帯が60パーセント

- 震災前後、家族数が減少していると回答した方は129人(60%)、変化なしと回答した方は75人(35%)、増加したと回答した方は10人(5%)と大半が減少している
- 震災前に家族が1人だった44人のうち、家族数が減ったのは7人に過ぎない。一方で家族が2人だった38人のうち28人、家族が3人だった47人のうち33人が減少。家族がいなくなった方は別の親戚の元に移るなどしたため、1人だけで暮らしている方は限られているのではないか

震災前後の家族数変化(単位:人、N=214)

		(震災後)家族数										計
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
(震災前)家族数	0	14	2	1								17
	1	7	35	2								44
	2		28	10								38
	3	2	4	27	9	1		3			1	47
	4	1	5	2	20	5						33
	5				4	12	1					17
	6				1	4	9					14
	7						2	1				3
	8										1	1
	計	24	74	43	33	22	12	4		1	1	214

(参考)震災前後の家族数変化と精神的不安を有する方の相関(複数回答)

家族数の変化	N=	強い怒りやイライラがある	混乱して、物事を決められないことが増えた	ぼーっとして何も考えられないことが増えた	失望感、絶望感がある	怖い思いや考えが頭を離れない	強い悲しみがある	孤立感がある	死に関連した内容など、苦痛な夢をみる	強く自分をせめる気持ちがある	暴力的に自分や誰かを傷つけたと思うことがある
-2以下	25	28%	20%	24%	24%	28%	20%	8%	4%	4%	0%
-1	104	34%	34%	31%	28%	22%	19%	16%	6%	13%	3%
0	75	32%	25%	29%	25%	21%	17%	17%	19%	5%	5%
全体	204	32%	29%	29%	26%	23%	19%	16%	10%	9%	3%

避難の理由は居住困難。70代以上では健康面を理由とする方も多い

- 「自宅が津波被害で居住不可能な状態になってしまったから(78%)」ともっとも多く、次いで「自宅の片づけ・修復が終わっていないから(37%)」と、居住困難が理由となっている方が多い
- 80代では「自宅は居住可能だが、病気など自分の健康面で不安があるから」という健康面を理由とする方も36%と多い

避難されている理由(複数回答、年代別)

	N=	自宅が津波被害で居住不可能な状態になってしまったから	自宅の片づけ・修復が終わっていないから	自宅は居住可能だが、ライフライン(電気・ガス・水道)が未復旧だから	自宅は居住可能だが、病気など自分の健康面で不安があるから	自宅は居住可能だが、経済的な生活環境に不安があるから	その他
全体	377	78%	37%	14%	8%	8%	10%
10代	12	75%	50%	8%	17%	0%	8%
20代	17	82%	24%	0%	0%	12%	18%
30代	30	73%	30%	13%	3%	7%	20%
40代	59	78%	31%	8%	5%	7%	17%
50代	67	84%	39%	12%	4%	7%	6%
60代	100	79%	35%	16%	6%	7%	8%
70代	81	70%	41%	20%	16%	9%	7%
80代	11	91%	64%	27%	36%	27%	9%

津波に限らず、自宅損壊により避難されている方も多い

避難理由 その他内容1/2

自宅損壊	地震、津波倒壊	40代	男性
	引っ越したいが、行先が見つからない	60代	女性
	新自宅にするのに、多賀城の仮設住宅に入りたい。お願いします。	70代	女性
	被災が大きくて住めなくなった。(取り壊す)	60代	女性
	県で修繕してくれるが、まだ始まっていない	40代	女性
	建物の建てつけが悪いため	20代	女性
	地震で住居不可と管理人から通告があったため	40代	女性
	家を建て直す家庭は仮設住宅応募不可らしく、家を建て直すにも、材料がないらしい。アパート等も、家電など全てを買うお金がない。	20代	女性
	大家がアパート解体予定なのだがいつになるかわからない。又、立ち退きの際の保障問題	40代	男性
	自宅が地震被害で居住不可能な状態になってしまったから。	40代	女性
	畳、ふすま、障子床持ち上がっているリフォーム終了になったら戻りたい	30代	女性
	新居が決定したが、未だ新居において生活できる準備が整ってないため	30代	男性
	引越しのため(自宅は移住不可能で)引越しの予定でもあったため	40代	男性
	家が半壊したから	40代	男性
	強制退去となった	40代	女性
	アパート解体になる	50代	男性
	地震によるアパート地盤沈下、倒壊の恐れ	40代	男性
	平屋であること。	70代	男性
	アパートの1階が駄目で2階の私の部屋も台所の天井が抜け落ちて大家が取り壊すとのこと	60代	男性
	賃借契約の解除	60代	女性
	大家から契約解除(アパートの)されたから。	30代	女性
	被害を受けた時点で住む所探して下さいと言われました	60代	男性
	地震で居住不可能	60代	男性
	自宅がもう立ち入り禁止になり住めないから	70代	女性
	アパートを探している	50代	男性
	家屋がたおれる可能性あり	60代	男性
	現在は電気のみ使用できる。市からは一部損壊(火災証明)。オーナーからは何の説明もなくただ危険だからと管理人に言われてとても困っている	40代	女性
1Fが居住不可能/ガスが未復旧	30代	女性	
自宅1階は何もなし、大工さん(リホーム)きそから見てもらわないと住めない。	60代	女性	
壁がはがれ人の入れる状態ではありません	70代	女性	
電気が家中漏電する恐れがあり業者に依頼中。一週間後に修理とのこと	70代	男性	
アパートの2階に住んでいたが、会話がひび割れ、地震の時に倒壊する寸前化と思われ、今も地震があり、倒壊の恐れがあるので(耐震強度にふあんあり)戻れない。	50代	女性	

ライフライン、心理、人間関係を理由に避難されている方も

- その他、「また強い余震があるのでは?といった不安(30代、男性)」という回答もみられる

避難理由 その他内容2/2

ライフライン	借家。電気、ガス、住居が修理中で住めない	70代	男性
	暖房が未修理のため	60代	男性
	電気・ガスが未復旧	50代	男性
	(台所、風呂使用不可)	60代	男性
	水道配管が折れている	60代	女性
心理	地震がこわい	10代	男性
	一人で部屋にいるのが怖いので日中お世話になりました。	60代	女性
	1人なのでよしんがこわい いつもビクビクしている	60代	女性
	余震が心配だから。	70代	女性
	アパートの2階に住んでいますが、1階の津波の被害により今後の余震による耐震が心配で怖い	30代	女性
	私は一人なので余震も続いているので、建物も不安なので、心配で避難しています。	60代	女性
人間関係	地震が恐い	40代	女性
	被災後親戚に身を寄せていたが、長くなるにつれ、居ずらくなり、黙って家を出た(チクリ、チクリと、いびられる)。	80代	女性
その他	津波の被害や地震の被害は、物の損害で済んでいます。自宅はアパートです。どうするのかは不動産屋さん大家さんと決めることです。病気もクスリも増えました。病院代や生活費がかかります。収入はあてになりません。息子の仕事も震災でなくなりました。どうやって生活していけばいいのでしょうか。	30代	女性
	石巻に戻る途中に、多賀城45号線で被災。	50代	男性
	自宅付近で営業を再開しているスーパーやコンビニが皆無で買い物等が不便。それとまた強い余震があるのでは?といった不安。	30代	男性
	日用品等、すぐ買い物に行けていた場所が今回の震災で被害にあい、自宅に戻っても不便なため。本震・余震で2才の孫が怖がるようになったため	50代	女性

10～30代では、解雇された方が30パーセント以上に

- 震災前就業率は、60代以上の32%に引きずられ、全体でも49%にとどまった
- 就業者の震災後の状況を年代別にみると、震災後解雇が10・20代、30代では30%以上にのぼったが、40代以上では10%半ばにとどまった

就業環境の変化

震災前の就業率(年代別)

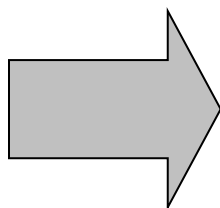
	N=	震災前就業率
全体	365	49%
10・20代	28	57%
30代	28	75%
40代	58	67%
50代	62	68%
60代以上	189	32%

就業者の震災後の状況(年代別)

	N=	変化なく継続	収入が減った	自宅待機になった	解雇された
全体	152	24%	30%	28%	18%
10・20代	15	20%	20%	27%	33%
30代	20	35%	20%	15%	30%
40代	32	31%	28%	28%	13%
50代	38	18%	34%	34%	13%
60代以上	47	21%	36%	28%	15%

1. 基本データ

- 1-1. 男女比、年代、居住年数、家族数
- 1-2. 避難理由
- 1-3. 就業環境の変化



2. 避難所生活

- 2-1. 健康状態
- 2-2. 精神状態
- 2-3. 身体・精神的な障害
- 2-4. 支援内容/その他

3. 将来への見通し

心身の不調がある方は62パーセントにのぼる

- 心身の不調がある方の比率は、全体で62%。不調がある方の中で、治療を受けている方が66%、服薬している方が69%
- 年代別にみると、高齢になるにつれ不調のある比率が高まっており、10・20代では38%だが、30代以上では50%以上、50代以上では70%前後が不調を訴えた
- 治療を受けている方が全体で66%に上る一方で、40代では50%、30代では33%、10・20代では14%と低い傾向が目立った

心身の不調を訴える方の割合(年代別)

	心身の不調がある		内、治療を受けている		内、服薬している	
	N=	比率	N=	比率	N=	比率
全体	310	62%	164	66%	170	69%
10・20代	26	38%	7	14%	8	63%
30代	24	54%	12	33%	11	45%
40代	53	51%	22	50%	22	55%
50代	50	66%	28	89%	27	85%
60代	78	65%	42	60%	47	62%
70・80代	79	75%	53	79%	55	78%

食事・睡眠・運動ともに十分とはいえず、40代以上が特に問題

- 食事を十分とれているのは全体で65%。ただし60代、80代では50%程度と低い
- 睡眠が十分にとれているのは全体でも38%。30代以上で悪化
- 運動がよくできているのは全体の32%に過ぎない。60代を除く40代以上で25%以下

食事、睡眠、運動に対する充実度(年代別)

	N=	しっかり食べられていますか？	よく眠れていますか？	よく(十分)運動していますか？
全体	352	65%	38%	32%
10代	12	83%	67%	58%
20代	16	88%	56%	31%
30代	29	76%	41%	52%
40代	55	73%	35%	25%
50代	64	64%	28%	25%
60代	91	53%	40%	38%
70代	75	67%	40%	24%
80代	10	50%	30%	20%

高血圧・糖尿病の方が19パーセントであり、とりわけ配慮が必要

- 「高血圧や糖尿病で生活への配慮が必要」と回答された方が19%と多く、次いで「その他、慢性的な病気がある(12%)」、「入れ歯の不具合など、歯のトラブル(11%)」と続く
- 疾患ごとに必要な支援内容も異なるが、「空気清浄機や換気扇及び加湿器等での湿度の調整(50代、男性)」など物資補給と、「カウンセリングを希望(40代、男性)」など人的支援に分かれる

治療・通院が必要な慢性疾患を有する方の割合
(複数回答、N=380)

必要な支援の内容

疾患の内容	比率
高血圧や糖尿病で生活への配慮が必要	19%
その他、慢性的な病気がある	12%
入れ歯の不具合など、歯のトラブル	11%
心臓病、腎臓病等の内臓疾患	8%
喘息、呼吸器系のトラブル	6%
アトピーや皮膚炎のトラブル	4%
被災前まで継続してメンタルヘルス・ケアを受けており、今も必要としている	3%
リウマチ性疾患など	1%

•空気清浄機や換気扇及び加湿器等での湿度の調整(50代、男性)
•糖尿病と診断され、食事療法を行なっている為、食事に配慮が必要。アレルギー症状で通院中(30代、女性)

•睡眠時無呼吸症候群重度。カウンセリングを希望。一人一人に寝具(布団一組)を希望。(40代、男性)

•歯科医に通院したい。以前の医院は津波で壊滅した為(60代、女性)
•自宅の様にきちんと歯みがき、シカンブラシでのケアが出来ない(60代、女性)

慢性疾患は50代以上で多くみられる

- 年代別にみると、50代以上に「高血圧・糖尿病」の症状が多くみられ、70代以上では加えて「心臓病、腎臓病等の内臓疾患(18%)」もみられる
- 20代に「アトピーや皮膚炎のトラブル(24%)」、30代に「喘息、呼吸器系のトラブル(10%)」がみられるのは注意が必要

治療・通院が必要な慢性疾患を有する方の割合(複数回答、年代別)

	N=	高血圧や糖尿病で生活への配慮が必要	その他、慢性的な病気がある	入れ歯の不具合など、歯のトラブル	心臓病、腎臓病等の内臓疾患	喘息、呼吸器系のトラブル	アトピーや皮膚炎のトラブル	被災前まで継続してメンタルヘルスケアを受けており、今も必要としている	リウマチ性疾患など
全体	380	19%	12%	11%	8%	6%	4%	3%	1%
10代	12	0%	0%	0%	0%	8%	0%	8%	0%
20代	17	0%	18%	0%	0%	6%	24%	6%	0%
30代	30	3%	0%	3%	3%	10%	0%	0%	0%
40代	59	8%	7%	5%	3%	5%	3%	2%	0%
50代	67	22%	22%	9%	4%	6%	3%	4%	1%
60代	100	24%	12%	12%	6%	5%	3%	2%	2%
70代	84	25%	14%	20%	18%	5%	6%	5%	2%
80代	11	45%	0%	18%	18%	0%	0%	9%	0%

病気・持病、心理状態に対しての相談が多い

- 病気・持病に関する相談としては、「まごのアトピーがひどくなった、ぜんそく 妻のイライラ(50代、男性)」、「風邪、ノロウイルスや衛生上の事(40代、女性)」、「母の認知症(50代、男性)」という回答があった
- 心理に関する相談としては、「精神的にまいっている。みんな(20代、女性)」、「子どもの集中力がなくなっている様に思える。落ち着いている事が出来ない(40代、女性)」という回答があった

健康状態について相談したいこと 1/2

病気・持病	持病の薬にお金がかかるのでなんとかならないか。	20代	男性
	主人が人口透析患者だが、始めてからまだ3か月ほどで、ここでの仕事が主人にとって適切であるのかどうか分からない。この生活を続けても主人の体調が悪くならないか不安。	30代	女性
	まごのアトピーがひどくなった、ぜんそく 妻のイライラ	50代	男性
	風邪、ノロウイルスや衛生上の事	40代	女性
	夫も喘息持ちで、心臓も悪い為、悪化しなければ良いが・・・家の片付けも、土ぼこり等吸い込むので心配	50代	女性
	母の認知症	50代	男性
	母の認知症が進んだ？	50代	男性
	主人は体調をくずし医者様のお世話になっております。大分よくなりました。	60代	女性
	妻が認知症でこの先、どうすればよいか	60代	男性
認知なので避難している中、強く症状が出た日があったので心配した。	80代	男性	
心理	病む	10代	女性
	精神的にまいっている。みんな。	20代	女性
	子供の心理状態が心配。難しい年頃になって来ている上、今回の体験で傷付いていると思うので。	30代	女性
	子どもの集中力がなくなっている様に思える。落ち着いている事が出来ない。	40代	女性
	避難所で喧嘩するようになった(兄弟喧嘩)	50代	女性
	生死に関わる経験をした子供たちが今は明るく遊んでいるが時々、変わった行動を取る時があり、それも被災の影響なのかと、又、今後は同対処すべきか等	50代	男性

次いで、食事・栄養や家族の健康に対する回答がみられた

- 食事・栄養に関する相談としては、「食生活が心配。栄養がかたよる(10代、女性)」、「食事のバランスが悪く、血圧が高い(40代、男性)」という回答があった
- その他相談としては、「自分1人だから(60代、女性)」、「現在は気を張っているので体調が悪くとも動いているが、落ち着いた後の脱力から来る不調が心配(60代、女性)」、「夫が介護生活中で金がかかる！(70代、女性)」という回答があった

健康状態について相談したいこと 2/2

食事・栄養	食生活が心配。栄養がかたよる。	10代	女性
	食事のバランスが悪く、血圧が高い。	40代	男性
	今後雨期に入ってから、熱い夏になってからの食物が心配	60代	男性
	避難生活も50日で高齢のため食事配分に1時間ほどかかるのが苦痛になった。	80代	男性
その他	母、行方不明	40代	男性
	自分1人だから	60代	女性
	現在は気を張っているので体調が悪くとも動いているが、落ち着いた後の脱力から来る不調が心配	60代	女性
	自分の体の関節、ふしぶしが痛い 被災前は体全体がやわらかく、いつも自慢していたが、それがなくなり心配だ	70代	女性
	自分がどこまでやれるかわかりませんが、自分のためにがんばります	70代	女性
	今は坂病院に通院しているので安心しております	70代	男性
	風呂に入れないので体が痒くて困る	70代	女性
	家族はおりません	70代	女性
	夫が介護生活中で金がかかる！	70代	女性
	お父さんが、入院した。	70代	女性
	足が痛い	70代	女性
妻が身体不自由	70代	男性	

様々なタイプの不安定な精神状態がみられる

- 「強い怒りやイライラがある」など不安定な精神状態や、「ぼーっとして何も考えられない」、「混乱して、物事を決められない」、「失望感、絶望感がある」などの無気力な状態が各々2～3割みられる
- 年代別には、10・20代に「怖い思いや考えが頭を離れない(34%)」、「死に関連した内容など、苦痛な夢をみる(24%)」。30代では「強い悲しみがある(37%)」、70・80代では「強い怒りやイライラがある(48%)」と比較的に高くみられた

精神的不安を有する方の割合(複数回答、年代別)

	N=	強い怒り やイライラがある	ぼーっとして何も 考えられないことが 増えた	混乱して、物事を 決められないことが 増えた	失望感、 絶望感がある	怖い思い や考えが 頭を離れない	強い悲し みがある	孤立感が ある	死に関連 した内容 など、苦 痛な夢を みる	強く自分 をせめる 気持ちがある	暴力的に 自分や誰 かを傷つ けたいと 思うこと がある
全体	380	31%	27%	26%	24%	21%	18%	16%	9%	8%	3%
10・20代	29	31%	34%	14%	14%	34%	14%	14%	24%	10%	10%
30代	30	37%	30%	27%	23%	27%	37%	13%	10%	13%	7%
40代	59	42%	27%	25%	22%	20%	17%	20%	14%	8%	3%
50代	67	33%	31%	25%	24%	16%	16%	16%	7%	10%	4%
60代	100	25%	23%	20%	22%	16%	9%	16%	6%	4%	1%
70・80代	95	48%	25%	36%	29%	22%	25%	16%	7%	9%	2%

相談はまず家族。50代以上はご近所も重要

- 「家族・親戚(避難所で同居)」が約半数を占め、次いで「ご近所・地域の人(30%)」、「家族・親戚(別居)(28%)」が多い。「他人に相談していない」も13%みられる
- 年代別にみると、20代までは7割近くが「家族・親戚(避難所で同居)」に相談し、50代以上になると「ご近所・地域の人」への相談が3割近くまで増えてくる。今後、仮設住宅において「近所」が維持されない問題が強く懸念される
- 男女別には、男性と比べて女性の方が「ご近所・地域の人」へ相談する比率が高く、同時に「他人に相談していない」のは男性の方が高い

避難所で困った時の相談相手の割合(複数回答、年代別・男女別)

	N=	家族・親戚(避難所で同居)	ご近所・地域の人	家族・親戚(別居)	他の避難者	避難所の人(管理・運営者)	専門家(医師・看護師・保健師など)	他人に相談していない	支援団体	その他
全体	304	49%	30%	28%	19%	17%	15%	13%	2%	9%
10代	10	100%	0%	30%	10%	0%	10%	0%	0%	30%
20代	15	67%	13%	20%	7%	20%	7%	13%	0%	20%
30代	29	59%	34%	28%	10%	3%	14%	21%	0%	7%
40代	48	52%	27%	25%	23%	15%	6%	10%	2%	15%
50代	60	47%	37%	28%	32%	28%	15%	15%	5%	7%
60代	78	40%	29%	24%	18%	13%	18%	12%	1%	6%
70代	56	46%	34%	38%	13%	21%	20%	16%	4%	4%
80代	8	25%	38%	13%	38%	25%	25%	0%	0%	0%
女性	168	49%	33%	29%	23%	17%	14%	10%	2%	8%
男性	136	49%	27%	26%	15%	17%	16%	17%	3%	10%

避難所生活(「精神状態の変化」と「相談相手」の相関)

- 「ぼーっとして何も考えられないことが増えた」、「死に関連した内容など、苦痛な夢をみる」と回答した方は、「家族・親戚(避難所で同居)」に相談する割合が54%以上と高い
- 「混乱して、物事を決められないことが増えた」、「怖い思いや考えが頭を離れない」と回答した方は、「ご近所・地域の人」や「他の避難者」に相談する割合がそれぞれ36%、25%以上と高い
- 「孤立感がある」、「自分を強くせめる気持ちがある」、「暴力的に自分や誰かを傷つけたいと思うことがある」と回答した方は、「他人に相談していない」割合が23%以上と高い

精神的不安を有する方が相談する相手の割合(複数回答)

	全体	強い怒り やイライラ がある	ぼーっとして何も 考えられないことが 増えた	混乱して、 物事を決 められないことが 増えた	失望感、 絶望感が ある	怖い思い や考えが 頭を離れ ない	強い悲し みがある	孤立感 がある	死に関連 した内容 など、苦 痛な夢を みる	強く自分 をせめる 気持ちか がある	暴力的に 自分や 誰かを傷 つけたい と思うこ とがある
N=	304	107	91	86	81	69	63	54	33	29	13
家族・親戚(避難所で同居)	49%	48%	54%	47%	43%	48%	44%	39%	58%	41%	54%
ご近所・地域の人	30%	30%	33%	42%	31%	36%	29%	28%	30%	38%	8%
家族・親戚(別居)	28%	24%	28%	29%	26%	25%	35%	22%	24%	28%	31%
他の避難者	19%	15%	23%	28%	21%	25%	25%	19%	30%	21%	0%
避難所の人(管理・運営者)	17%	20%	14%	23%	11%	22%	19%	13%	18%	14%	8%
専門家(医師・看護師・保健師など)	15%	15%	13%	15%	16%	17%	19%	6%	6%	14%	15%
支援団体	2%	3%	3%	5%	3%	3%	2%	4%	0%	3%	0%
その他	9%	13%	8%	7%	11%	10%	11%	13%	15%	10%	23%
他人に相談していない	13%	16%	15%	16%	19%	17%	11%	26%	12%	24%	23%

70代以上の1割前後が、身体的な不自由をお持ちである

- 「聴くことに不自由がある(聴覚障害)」が4%、「見ることに不自由がある(視覚障害)」、「精神的な障害がある」が各3%みられる
- 年代別では、70・80代で「聴くことに不自由がある(聴覚障害)」方が10%以上と高くなっている

身体的・精神的な障害がある方の割合(複数回答、年代別)

	N=	聴くことに不自由がある(聴覚障害)	見ることに不自由がある(視覚障害)	精神的な障害がある	外出時に介助が必要	日常的に身体介護が必要	認知症がある	話すことに不自由がある	食べることに困難がある(拒食・過食)	その他、配慮を求めたい個別な事情がある	知的なハンディキャップがある	発達障害・自閉症などがある
全体	380	4%	3%	3%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%
10代	12	8%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
20代	17	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
30代	30	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%
40代	59	2%	2%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
50代	67	0%	3%	3%	0%	1%	1%	0%	0%	3%	0%	0%
60代	100	1%	2%	1%	2%	2%	0%	0%	1%	1%	0%	0%
70代	84	12%	7%	6%	4%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%
80代	11	18%	0%	0%	9%	0%	18%	9%	9%	0%	0%	0%

入浴・メガネ・食事・入れ歯などの支援需要は、高齢ほど大きい

- 入浴(6.6%)、メガネ(5.5%)、食事(4.2%)、入れ歯(3.9%)、外出(3.4%)の順で、支援を必要とされている。ご家族中心に、支援が必要であると認識されている方は多い
- 年代別に、70・80代で各項目への支援が必要と回答されている割合が高く、入浴は10%以上、入れ歯は9%以上と多い

身体的・精神的な障害のある方への必要な支援内容の割合(複数回答、年代別)

	N=	入浴	メガネ	食事	入れ歯	外出	補聴器	排泄	コミュニケーションへの配慮	杖	その他
全体	380	6.6%	5.5%	4.2%	3.9%	3.4%	2.4%	1.6%	1.6%	1.3%	1.6%
10代	12	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	17	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	30	10.0%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	3.3%	0.0%	3.3%
40代	59	3.4%	3.4%	3.4%	1.7%	1.7%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%
50代	67	4.5%	7.5%	6.0%	3.0%	6.0%	0.0%	1.5%	0.0%	1.5%	3.0%
60代	100	6.0%	3.0%	3.0%	1.0%	2.0%	2.0%	2.0%	1.0%	1.0%	0.0%
70代	84	10.7%	8.3%	4.8%	11.9%	3.6%	3.6%	0.0%	2.4%	2.4%	1.2%
80代	11	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%

・風呂に入れず困っています。駅前に自衛隊の風呂がありますが長男は介助なしでの入浴が困難なので、一緒に入浴して介助してもらえると有難いです。女性同士であれば親の私が出来ますが、混浴は無理ですので(60代、女性)

・歩ける距離に限界があるので、車など足が必要な用がある時は支援が必要(60代、男性)

・母の被害妄想があり、友達が近くにいない、話し相手がいないので、ボーとしていることがある(50代、男性)

移動・医療・介護において、必要な支援内容が詳しく記述

- 「高齢で歩行が困難になっている(60代、男性)」と移動に関する回答、「神経科のクスリを服用(30代、女性)」と医療・薬に関する回答、「母が半身不随の為、常に介護が必要(60代、女性)」と介護に関する回答があった
- その他、「いびきで目が覚めるが、仕方がないと思っている(50代、女性)」、「母の被害妄想があり、友達が近くにいない、話し相手がいないので、ボーとしていることがある(50代、男性)」という回答があった

身体的・精神的な障害のある方への支援 詳細

移動	歩ける距離に限界があるので、車など足が必要な用がある時は支援が必要。	60代	男性
	高齢で歩行が困難になっている	60代	男性
医療・薬	神経科のクスリを服用	30代	女性
	交通事故の後遺症により味覚障害と嗅覚障害が有る	30代	女性
介護	夜、トイレとか風呂に一人だと無理かもしれない。	70代	女性
その他	いびきで目が覚めるが、仕方がないと思っている	50代	女性
	その他(マッサージなど体を動かすようにすること)	50代	男性
	母の被害妄想があり、友達が近くにいない、話し相手がいないので、ボーとしていることがある。	50代	男性
	2度にわたり、秋保、山形にバス旅をさせていただきました。(風呂)一時罹災を忘れる事が出来、うれしく思います。	50代	女性

周囲から、妊婦は配慮が必要と理解されるが、アレルギーは理解されにくい

- 自分自身が「食品アレルギーがあり、対応が必要」と回答したのは1.8% (家族1.6%)、「外国籍である」と回答したのは0.5% (家族0.5%)、「妊婦」と回答したのは0.3% (家族2.1%)。家族に乳幼児がいると回答したのは0.8%
- 必要な支援内容としては、「ミルク、離乳食、ミルトンなど、子供用品全品(40代、女性)」など、物資補給の回答が目立つ

特別な配慮を必要とする方の割合
(複数回答、N=380)

必要な支援の内容

	配慮内容	比率
あなたが	食品アレルギーがあり、対応が必要	1.8%
	外国籍である	0.5%
	妊婦	0.3%
家族が	妊婦	2.1%
	食品アレルギーがあり、対応が必要	1.6%
	乳幼児	0.8%
	外国籍である	0.5%

•食事、衛生面(40代、女性)
•2級の要介護者(家内)がいるためお風呂に入られない((70代、男性)

•野菜、マタニティー服、お風呂(10代、女性)

•ミルク、離乳食、ミルトンなど、子供用品全品(40代、女性)

食事・医療・風呂における支援が特に喜ばれていた

- 食事や医療・マッサージ支援に関するコメントが多く、回答率もそれぞれ33%、24%
- 次いで、風呂・洗髪が16%、物資が13%と多く、片づけ・清掃と会話・声かけの回答も7%ある
- 具体的には、「温かい食べ物や飲み物などが、嬉しかったです(50代、他多数)」、「体の不調があるときに医師が避難所に常駐(昼)しているので安心してしています。(60代、女性)」というコメントがあった

好ましかった支援内容 1/2

カテゴリ	回答率	具体的コメント
食事	33%	<ul style="list-style-type: none"> • 炊き出し(全年代) • COCO壺番屋のカレー(10代、男性) • 温かい食べ物や飲み物などが、嬉しかったです(50代、他多数) • 毎日三度三度の食事(60代、女性)
医療・マッサージ	24%	<ul style="list-style-type: none"> • マッサージ、足湯(全年代) • 歯医者(40代、女性) • 体の不調があるときに医師が避難所に常駐(昼)しているので安心してしています。(60代、女性) • 毎日医療チームの巡回があり体調などの相談ができること。(60代、男性) • 毎日血圧測定していただいている(80代、男性)
風呂・洗髪	16%	<ul style="list-style-type: none"> • 風呂(全年代) • 自衛隊の広いお風呂に入った事(40代、女性。他) • 秋保での温泉がとても楽しかった事(70代、男性。他) • 洗髪所(10代、女性。他)
物資	13%	<ul style="list-style-type: none"> • 衣類、肌着、下着(全年代) • 子供たちへのオモチャ、文房具、学校用品などの物資(30代、女性) • 子供のために必要な物をあつめて届けてくれた事。特にミルク、ミルトン、離乳食など(40代、女性) • 老眼鏡のプレゼント(60代、女性)
片づけ・清掃	7%	<ul style="list-style-type: none"> • 家具の片づけ(40代、男性) • 床下のヘドロを取って頂いたことです。皆さんには本当にありがとうございます。(60代、女性) • 泥まみれの家財道具の後片付けをしてもらった事(70代、男性)
会話・声かけ	7%	<ul style="list-style-type: none"> • いろんな県から避難所に応援に来てくれて、励ましの言葉やいろんなこと(40代、女性) • しんせつといねいな市の職員、ボランティアの方々の対応です。特に言葉づかいに安心しました。(50代、男性) • やさしいお声がけを頂き心が和みます。(60代、女性)

様々な分野でボランティアが活動しており、喜ばれている

- その他の中でも、洗濯、理容、レクリエーション・運動、心理、運営に関する支援への回答が目立った
- 具体的には、「子供と遊んで下さる、ボランティアの方は、とてもやさしくして下さり、助かりました(40代、女性)」、「避難所の運営者の方々の対応が良かったです(50代、男性)」というコメントがあった

好ましかった支援内容 2/2

カテゴリ	回答率	小カテゴリ	具体的コメント
その他	43%	洗濯	・洗濯(10代、女性)
			・洗濯おじさん (伊豆の国市すだっち)(20代、女性)
			・移動コインランドリー(40代、女性)
		理容	・理美容のカットボランティア(全年代)
		レクリエーション・運動	・ライブ等(20代、女性)
			・音楽関係の慰問(30代、女性)
			・子供と遊んで下さる、ボランティアの方は、とてもやさしくして下さり、助かりました。(40代、女性)
			・バス旅嬉しかったです(50代、女性)
		心理	・多賀もり体操(70代、女性)
			・色々の面でやさしく、何ごとにも一生懸命にしてくれたこと(40代、女性)
			・毎日毎日余震もあり、でもボランティアの方々は暖かい気持ちでせつしてくれるのでとても感謝しております。又、気持ちの上でもとても安心です。(60代、女性)
			・悲しい思いを支援者にきいていただけたこと。(50代、女性)
		運営	・東北学院大の生徒さんたちのやさしさ(50代、女性)
			・多数友達ができたこと(50代、女性)
			・避難所の運営者の方々の対応が良かったです(50代、男性)
		全般	・親切にすぐ教えてくれてありがたいと思う(70代、女性)
			・一晩中ラジオ(情報)を流してくれたこと(60代、女性) ※他、運営に批判的なコメントは1件
		その他	・衣食住を避難所で支援され、とても助かっています。(40代、女性)
			・すべてに感謝してます(40代、男性)
			・ペットがいるのですが、えさ、ペットシート等たいへん良くしてもらった。(50代、女性)
その他	・自転車のパンクやチェーンの油さしなどこまかくしてくれたこと(50代、男性)		
	・特にはじめにいった避難所のトイレの清掃!(40代、男性)		

大声など、落ち着かない行動をとる方を気にする方が多い

- 「大声を出したり、いつも落ち着かないなど、気になる行動をとる子どもや大人」がいると回答したのは、17%と多い
- 年代別にみると、30代で「誰とも話をしたりしていない孤立した人」がいると回答したのは17%と目立つ

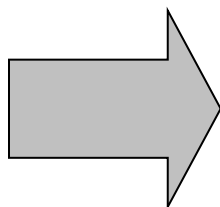
周囲に気になる方がいる割合(複数回答、年代別)

	N=	大声を出したり、いつも落ち着かないなど、気になる行動をとる子どもや大人	誰とも話をしたりしていない孤立した人	寝たままで、自分から動こうとしない人	食べない、夜にひとりで外出するなど、自分自身を危険にさらしている人	その他、気になる避難者の方がいる
全体	380	17%	6%	3%	1%	11%
10代	12	17%	8%	8%	0%	17%
20代	17	18%	0%	0%	0%	0%
30代	30	23%	17%	7%	0%	10%
40代	59	17%	5%	2%	2%	20%
50代	67	25%	3%	4%	1%	13%
60代	100	13%	4%	2%	0%	7%
70代	84	13%	6%	4%	1%	10%
80代	11	9%	9%	0%	0%	9%

1. **基本データ**
 - 1-1. 男女比、年代、居住年数、家族数
 - 1-2. 避難理由
 - 1-3. 就業環境の変化

2. **避難所生活**
 - 2-1. 健康状態
 - 2-2. 精神状態
 - 2-3. 身体・精神的な障害
 - 2-4. 支援内容/その他

3. **将来への見通し**



住まい・お金が、具体的な不安

- 住居への不安が76%、収入への不安が59%と突出して高く、次いで漠然とした不安が29%と高い
- 年代別にみると、10・30・40代で、職場や学校の継続への不安が19%以上、育児・子どもの教育への不安が13%以上と高い
- また70代以上では、収入への不安もやや少なくなるが、障害や介護への不安が16%以上と高い

将来、不安に思っていることへの回答割合(1人3つまで回答、年代別)

	N=	住居	収入	漠然とした不安	職場や学校の継続	家族の介護	身体的・精神的な障害	自分の介護	育児・子どもの教育	家族の離散	その他
全体	294	76%	59%	29%	11%	11%	10%	10%	6%	4%	6%
10代	8	50%	25%	25%	50%	0%	13%	0%	13%	0%	25%
20代	15	87%	73%	20%	13%	0%	0%	0%	7%	7%	7%
30代	23	61%	78%	26%	22%	9%	17%	0%	22%	4%	9%
40代	48	83%	60%	31%	19%	8%	13%	4%	13%	0%	8%
50代	62	76%	71%	29%	15%	15%	6%	3%	6%	2%	6%
60代	69	80%	61%	29%	1%	7%	3%	14%	0%	7%	6%
70代	62	73%	42%	29%	3%	16%	18%	23%	0%	5%	2%
80代	7	71%	0%	29%	0%	29%	29%	29%	0%	14%	0%

経済的に不安がある方は睡眠、健康面に不安がある方は食事の充実度が低い

- 「自宅は居住可能だが、経済的な生活環境に不安があるから(2.44個)」、「自宅は居住可能だが、病気など自分の健康面で不安があるから(2.17個)」と回答している方は、精神状態の設問チェック数が多い傾向にあり、前者は食事の充実度が62%、後者は睡眠の充実度が33%と平均より低い

避難理由別にみた精神状態の設問チェック数と食事、睡眠に対する充実度

避難理由	N=	回答者当り チェック数平均	精神状態の設問 チェック数合計 * (計10項目)	よく眠れてい ますか？	しっかり食べ られています か？
自宅は居住可能だが、経済的な生活環境に不安があるから	27	2.44	66	33%	67%
自宅は居住可能だが、病気など自分の健康面で不安があるから	29	2.17	63	41%	62%
自宅が津波被害で居住不可能な状態になってしまったから	272	1.88	512	39%	64%
自宅の片づけ・修復が終わっていないから	125	1.74	218	40%	70%
自宅は居住可能だが、ライフライン(電気・ガス・水道)が未復旧だから	49	1.33	65	35%	71%
その他	37	2.57	95	49%	68%
全体	352	1.89	664	38%	65%

就業状況に変化のない方は住居、自宅待機や解雇された方は収入に不安

- ① 震災後の就業状況が「変化なく継続」の方は、「住居に不安(89%)」を持たれている方が多く、「収入に不安(33%)」を持たれている方は少ない
- ② 就業状況が「自宅待機になった」、「解雇された」と変化のあった方は、「収入に不安(80~88%)」と「職場や学校の継続に不安(20~31%)」を持たれている方が比較的に多い

就業環境の変化と将来、不安に思っていることの相関(1人3つまで回答)

就業環境の変化		N=	住居	収入	漠然とした不安	職場や学校の継続	家族の介護	身体的・精神的な障害	自分の介護	育児・子どもの教育	家族の離散	その他
(震災前)	就業者	124	79%	66%	27%	19%	10%	7%	1%	10%	3%	7%
	非就業者	139	74%	47%	32%	3%	12%	14%	19%	2%	6%	6%
(震災後) 就業者の内	変化なく継続	27	89%	33%	26%	15%	15%	4%	0%	19%	0%	7%
	収入が減った	40	78%	63%	20%	10%	8%	5%	3%	10%	3%	10%
	自宅待機になった	32	78%	88%	34%	31%	13%	9%	0%	6%	3%	3%
	解雇された	25	72%	80%	28%	20%	8%	12%	0%	4%	8%	8%
全体		294	76%	59%	29%	11%	11%	10%	10%	6%	4%	6%

①
②

金銭・仕事・住まいに不安

- 「多賀城市に対しての不安(30代、女性)」などの行政、「収入が安定しないため、ローン等の支払いがちゃんとできるか不安。周りの方々が次々と避難所を去っていく今、とても家に帰りたい気持ちでいっぱい(20代、女性)」などの金銭、「新たな職場を探しだすことができるかどうか(50代、男性)」などの仕事、「今まで住んで居た家をどの様にすれば良いのか？ 思案中です(80代、女性)」などの住まいへの不安がみられる

不安に思うこと その他内容

行政	水が上がる土地なので、行政で危機感をもっと持って考えてほしい。代替地。	50代	女性
	多賀城市に対しての不安。	30代	女性
金銭	住宅の修復の見通しが立たない。国、県、市の支援が250万円程あるようだが、実際には800~1000万の費用がかかる事。	60代	女性
	現在の住居を出る際、家賃の精算、敷金の返金について。家賃は口座引き落としのため、住めない状態でも3、4月分全額引落とし、家主側からも何の説明もなし。不動産屋も頼りにならない。	60代	女性
	今は生活ほごを受けています	50代	男性
	収入が安定しないため、ローン等の支払いがちゃんとできるか不安。周りの方々が次々と避難所を去っていく今、とても家に帰りたい気持ちでいっぱい。	20代	女性
	共に働いて、安定した収入がほしい。	50代	男性
仕事	新たな職場を探しだすことができるかどうか	50代	男性
	自営業、機械が水浸し仕事できるか心配	70代	女性
	仕事・就職の事	40代	女性
住まい	ライフライン等	10代	男性
	アパートの住人が出ていかれるのか不安(退去)	60代	男性
	今まで住んで居た家をどの様にすれば良いのか？ 思案中です。	80代	女性
その他	3回も水害にあったのでこれからもあるかも？ 心配	60代	男性
	いつまた大きい地震が来るのか	10代	女性
	地震が解決して早く家に帰りたい	70代	女性
	家の補修、町内の復興	50代	男性
	犬→家族だから	30代	女性
	今度地震・津波がきたらどうしよう 家が直るまで市外に引越すので多賀城の情報が入ってくるのか	40代	女性
	父は病院に入院中ですが。なかなか忙しく、洗濯物を取りに行けない事。家をどの様にすればベストなのか思案中です。	50代	女性

まずは住まい関連。その後50代以下では仕事関連にニーズ

- 「自宅の修復(37%)」、「転居先(市内)での生活(25%)」などの住まいニーズと、「日常的な生活に必要な資金(36%)」、「引っ越し等、一時的に必要な資金(27%)」などの資金ニーズ、「求職・就職のサポート(21%)」などの仕事ニーズが多い
- 年代別にみると、20代から50代で仕事ニーズが高い一方で、80代では「日常的な買い物や外出(40%)」、「心のケア(40%)」が高い

生活再建に向けて特にニーズのある相談事項の回答割合(1人3つまで回答、年代別・男女別)

	N=	自宅の修復	日常的な生活に必要な資金	引っ越し等、一時的に必要な資金	転居先(市内)での生活	求職・就職のサポート	日常的な買い物や外出	通院	心のケア	遠隔地(市外・他府県)への転居	介護	新たな資格や技術の獲得	育児・子どもの教育	労働問題に関するサポート	教育・進学	事業の再開や移転	託児	DV(家庭内暴力)に関する相談ごと	その他
全体	252	37%	36%	27%	25%	21%	11%	10%	8%	7%	7%	6%	5%	4%	3%	1%	0%	0%	5%
10代	5	20%	20%	0%	40%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	20%	0%	0%	0%	0%
20代	10	40%	60%	20%	10%	60%	20%	0%	0%	30%	0%	20%	10%	10%	0%	0%	0%	0%	10%
30代	24	29%	21%	38%	29%	38%	4%	0%	8%	4%	0%	21%	21%	13%	4%	0%	0%	0%	8%
40代	41	27%	41%	34%	32%	24%	10%	2%	7%	17%	2%	5%	2%	2%	7%	0%	2%	0%	7%
50代	53	38%	40%	21%	15%	34%	4%	9%	8%	4%	4%	4%	8%	2%	2%	4%	0%	0%	2%
60代	62	37%	32%	34%	29%	13%	8%	10%	8%	6%	8%	2%	0%	5%	2%	2%	0%	0%	8%
70代	52	44%	40%	21%	27%	2%	21%	27%	6%	2%	15%	4%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	2%
80代	5	60%	0%	20%	20%	0%	40%	0%	40%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
女性	134	39%	36%	25%	22%	16%	12%	9%	10%	8%	6%	4%	5%	3%	3%	1%	1%	0%	4%
男性	118	34%	36%	30%	29%	26%	9%	12%	4%	6%	8%	8%	4%	5%	3%	1%	0%	0%	6%

住まい・情報提供に強いニーズ

- 「仮設申し込み中、年金のみの収入(70代、女性)」、「住んでいたアパートの大家さんに再三にわたり(耐震強度に不安があるため)補強をして、安心して住めるようにお願いをして来たが、階段の亀裂にガムテープを貼ってある程度です。安心して住むことができない為に、戻れず困っています(50代、女性)」などの住居、「二次避難先等への情報提供の充実(20代、男性)」などの情報提供へのニーズがみられる

生活再建ニーズ その他内容 1/2

住まい	仮設申し込み中、年金のみの収入	70代	女性
	車椅子なので階段のある所ではおっかないです	60代	女性
	震災後、明月地区・宮内地区・栄地区を、どのように再建し人々に安心して居住できるようにしてくれるのか。多賀城市の考えを知りたいです。	30代	女性
	住居について	40代	女性
	犬が居るので、どうしても犬とはなれられない	30代	女性
	一日も早く住宅が一番とにかく母親を落ち着かせて仕事にもどりたい。第一回目の仮設住宅の抽選にもれてしまい。どうしたらいいかわからない。	60代	男性
	公共住宅の入居	70代	男性
	賃借住宅が不足して転居先が決まらないこと	60代	男性
	住んでいたアパートの大家さんに再三にわたり(耐震強度に不安があるため)補強をして、安心して住めるようにお願いをして来たが、階段の亀裂にガムテープを貼ってある程度です。安心して住むことができない為に、戻れず困っています。	50代	女性
情報提供	二次避難先等への情報提供の充実	20代	男性
	一人一人が立ちあげることのできる支援を求めたい	40代	男性

中期的には、仕事に対する希望が50代以下で強い

- 「新たに仕事を探したい(32%)」、「復職したい(26%)」という仕事に関する希望が多く、次いで「被災体験を誰かに伝えたい(20%)」、「町内会など地域活動に参加したい(17%)」がみられる
- 年代別にみると、20代から50代では仕事に関する希望が多く、10・20・80代では「被災体験を誰かに伝えたい」が3割以上、70代以上で「町内会など地域活動に参加したい」が29%以上と高い

今後3ヶ月以内に取り組みたい希望事項の回答比率(1人3つまで回答、年代別・男女別)

	N=	新たに仕事を探したい	復職したい	被災体験を誰かに伝えたい	町内会など地域活動に参加したい	共通のテーマで仲間づくりがしたい((例)子育てサークル、茶話会)	特技や趣味を活かして市民活動に参加したい	学校で勉強がしたい	復興のためのイベントや催し物を企画・運営したい	事業を起こしたい(商売を始めたい)	その他
全体	199	32%	26%	20%	17%	13%	11%	4%	4%	3%	20%
10代	5	20%	0%	40%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	40%
20代	13	62%	31%	31%	8%	0%	0%	0%	8%	0%	15%
30代	21	48%	38%	14%	10%	5%	0%	19%	10%	0%	14%
40代	36	42%	33%	11%	3%	11%	3%	0%	3%	8%	19%
50代	41	39%	37%	17%	22%	7%	12%	0%	5%	0%	22%
60代	48	23%	19%	23%	21%	21%	17%	0%	2%	4%	19%
70代	31	6%	10%	19%	29%	19%	19%	6%	3%	3%	26%
80代	4	0%	0%	50%	50%	25%	25%	0%	0%	0%	0%
女性	102	22%	28%	21%	15%	14%	11%	0%	3%	3%	21%
男性	97	42%	23%	19%	20%	11%	10%	7%	5%	3%	20%

健康状態が安定すると、仕事への意欲が高まる傾向

- 自宅が居住可能または、完全に不可能な場合、就職・復職に意識が向いている
- ただし「片づけ・修復が終っていない」「ライフラインが未復旧」などで避難所に来られている方は、住まいに意識が向いており、仕事への意欲はやや低い
- 健康面で不安な方の、仕事への意欲は低い(ただし、年齢層が高いという理由もある)

避難理由別にみた職業に関する希望割合

	N=	新たに仕事を探したい	復職したい	
全体	199	32%	26%	
自宅は居住可能だが、経済的な生活環境に不安があるから	14	50%	36%	} 意欲高め
自宅が津波被害で居住不可能な状態になってしまったから	153	33%	28%	
自宅の片づけ・修復が終わっていないから	70	27%	27%	} 意欲やや低め
自宅は居住可能だが、ライフライン(電気・ガス・水道)が未復旧だから	25	12%	28%	
自宅は居住可能だが、病気など自分の健康面で不安があるから	14	7%	21%	} 意欲低め
その他	21	33%	19%	